

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成30年 4月～ 6月実績

平成30年 7月～ 9月見通し

福井県商工会連合会

## 1. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成30年4～6月期実績及び平成30年7～9月期見通し
7. 調査時点 平成30年6月1日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

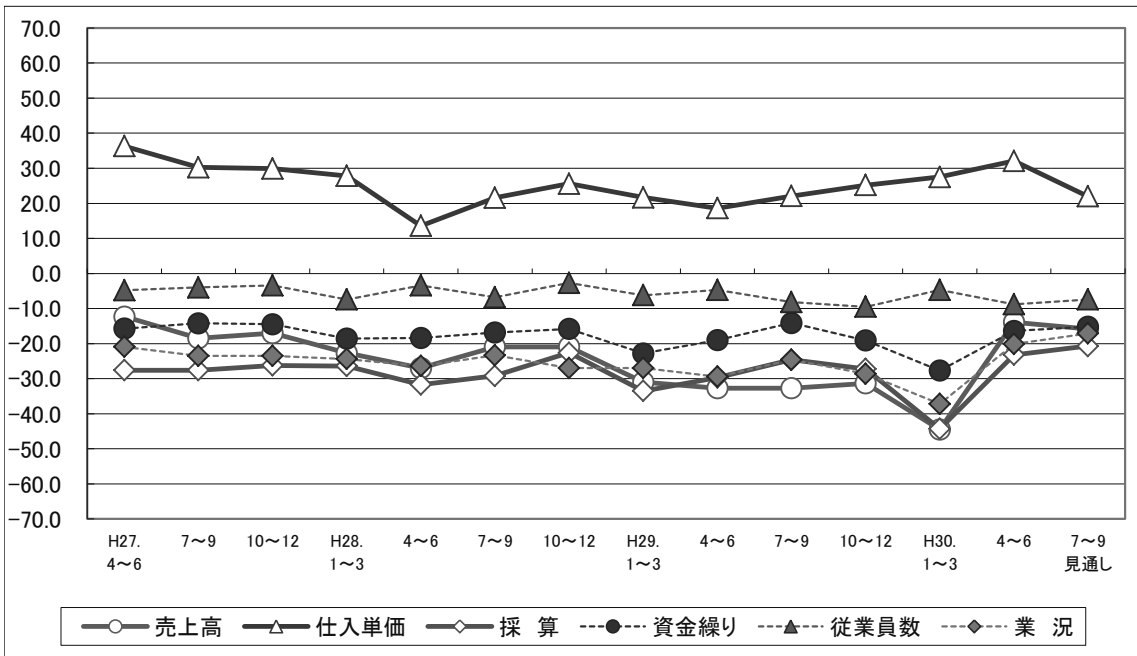
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

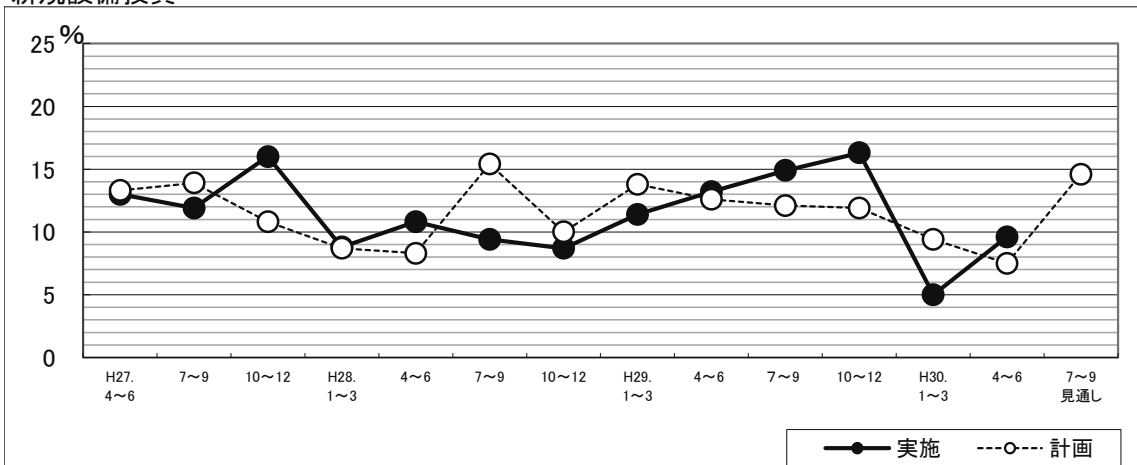
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

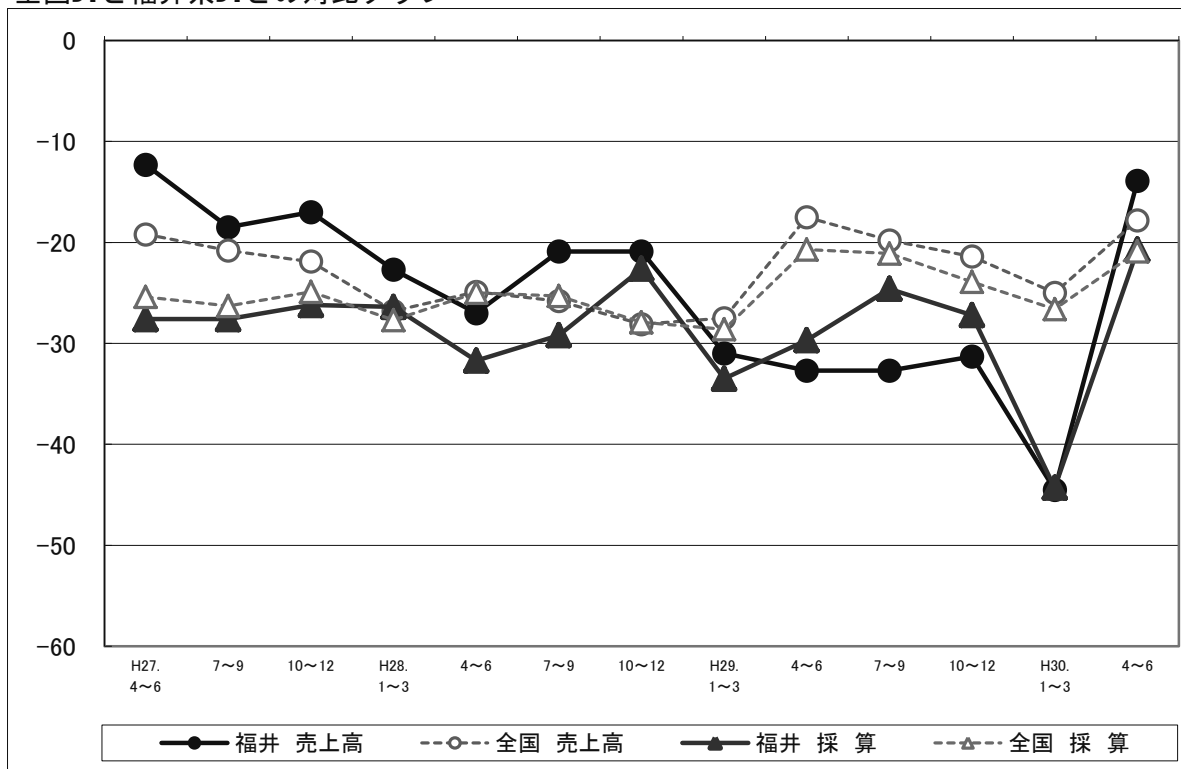
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.4~6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9見通し	▲ 15.8	22.0	▲ 20.7	▲ 15.2	▲ 7.4	▲ 17.1



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



### 全体の景況

平成30年4～6月期の福井県経済を概観すると、需要面では、新車販売が横ばい圏内の動きとなっているものの、百貨店・スーパーで化粧品や宝飾品・時計等が堅調に推移しているほか、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンターなどでも堅調な売上高を維持、家電販売も持ち直している。供給面では、電子部品・デバイス、輸送機械等で生産拡大が続いているほか、繊維や眼鏡枠といった地場産業でも製品別の生産状況にややばらつきが見られるものの、基調としては堅調な生産・出荷動向を維持しており、全体として緩やかに拡大している。

こうした中、今期（H30年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち4項目で改善、残り2項目で悪化傾向となった。ちなみに、改善した項目は、売上高（前期▲44.5→今期▲13.9）、採算（前期▲44.3→今期▲23.2）、資金繰り（前期▲27.7→▲16.4）、業況（前期▲37.2→今期▲20.1）であった。また、悪化した項目は仕入単価（逆指数）（前期27.5→今期32.1）、従業員数（前期▲4.7→今期▲8.8）であった。これにより、県内中小企業の経営環境は、概ね回復基調にあるとはいえ、いまだ水面下で仕入単価や従業員確保などの面で課題を残していることが分かる。また、先行き（H30年7～9月期）については、6項目中5項目で改善傾向を示している。

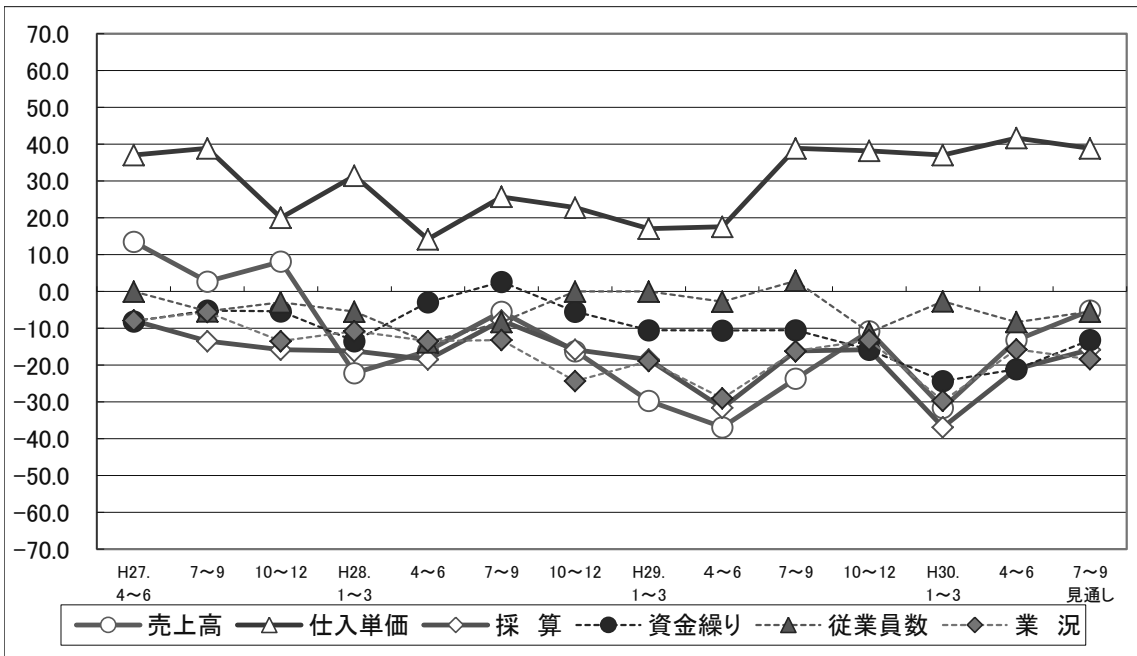
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目とも前期に比べ全国を上回る回復傾向を示している。ただ、この背景には、大豪雪により大きく落ち込んだ前期との比較といった特殊要因があることも否定できない。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト7.5%に対して実施した企業ウエイトが9.6%と、低水準ながらも動きとなった。また、先行き（H30年7～9月期）についても計画が14.6%となっており、投資マインドはさらに上向くことが予想される。

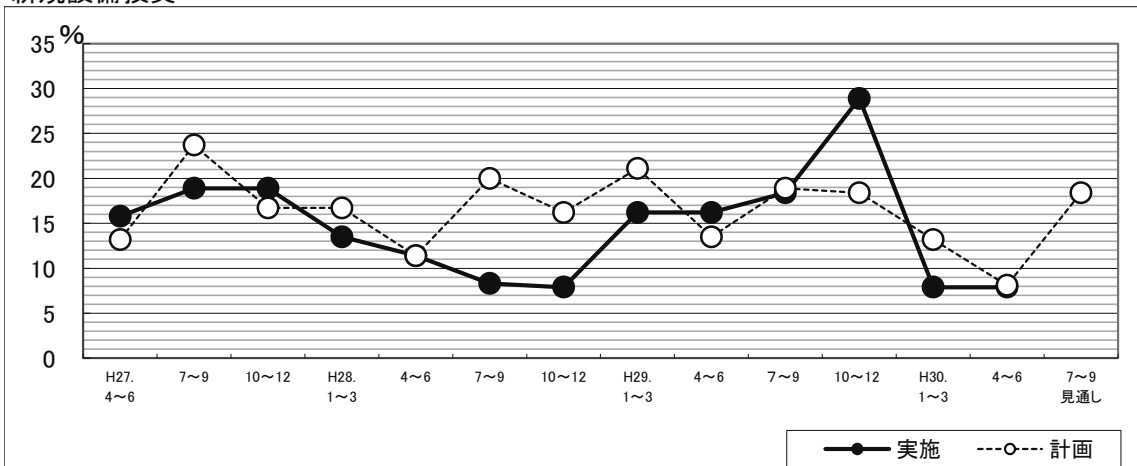
## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

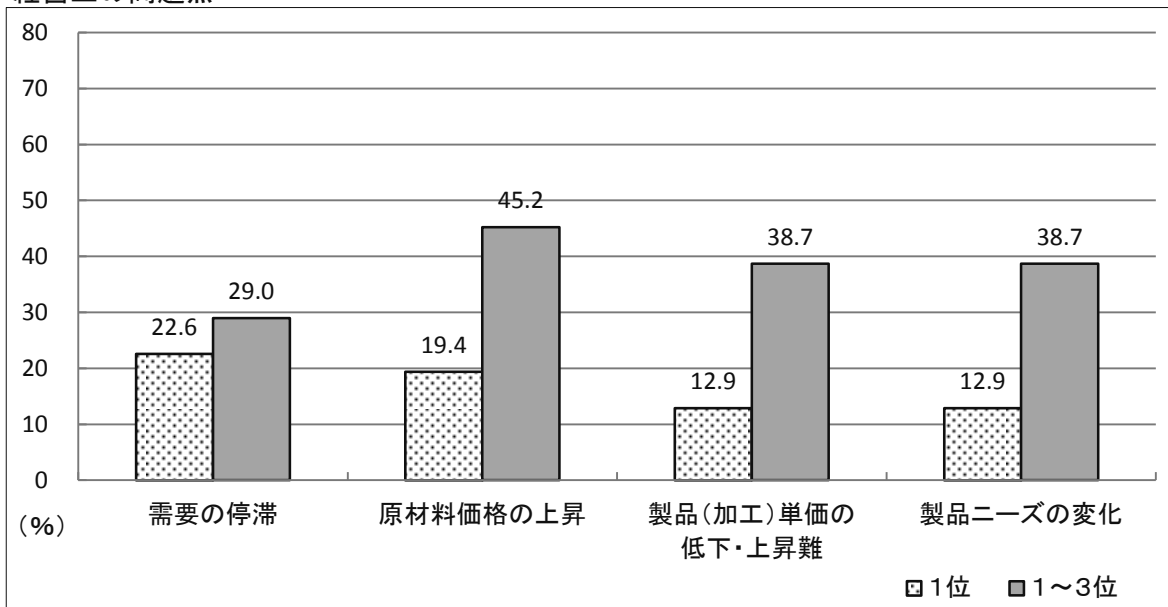
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.4~6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9見通し	▲ 5.2	38.9	▲ 15.8	▲ 13.2	▲ 5.5	▲ 18.4



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・受託加工の仕事量は増加傾向だが、労働力不足である
- ・引き合いが多いため好転している
- ・国体に向けて商品開発を進めており、売り上げは増加の予定

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では引き続き厳しい展開が続いているが、生産キャパに見合う受注高を確保し概ね順調に推移、特に繊維は非衣料向けが順調となっているほか、衣料向けに動きがみられることから、全体でも緩やかに持ち直しつつある。そのほか、化学、プラスチックなどでは受注環境に品目による格差が見られるものの、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に、輸送機械などでも自動車変速装置部品を中心に緩やかに拡大傾向を維持している。そのため、全体としては、業種間でばらつきを伴いつつも、緩やかな拡大が続いていると言える。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち4項目で回復傾向となった。ちなみに、各項目の動きをみると、売上高が前期▲31.6→今期▲13.2へ、仕入単価（逆指標）が前期37.1→今期41.7へ、採算が前期▲36.9→▲21.0へ、資金繰りが前期▲24.3→今期▲21.1へ、従業員数が前期▲2.7→今期▲8.3へ、業況が前期▲29.7→今期▲15.7へと変化している。また、先行き（H30年7-9月期）についても、6項目中5項目で改善へと向かっている。

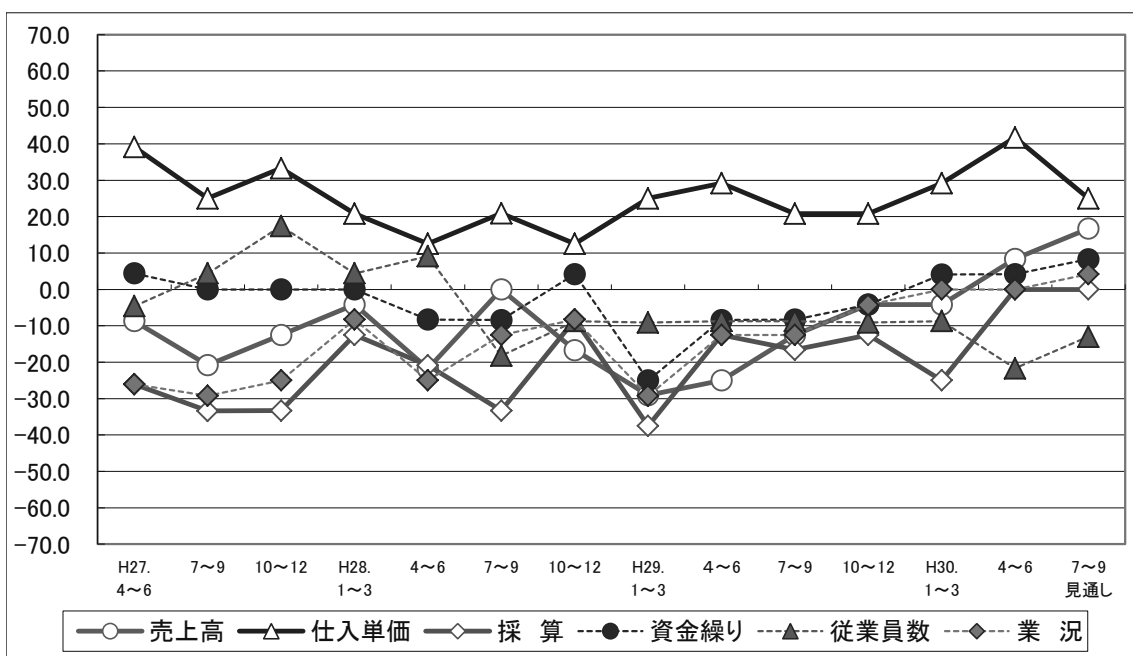
一方、新規設備投資の状況については、計画の8.1%に対し実施が7.9%とそこそこの実施状況となった。また、先行き（H30年7-9月期）については、何らかの投資を予定する企業が18.4%と大幅な増加となり、投資マインドは回復の動きを強めている。ただ、この背景としては、モノ補助など公的支援策による下支えが奏功している事実も否めない。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く22.6%（1位～3位までに挙げた企業29.0%）を占めた。次いで、「原材料価格の上昇」が19.4%（1位～3位までに挙げた企業45.2%）、また「製品単価の低下・上昇難」、「製品ニーズの変化」が同率の12.9%（1位～3位までに挙げた企業38.7%）が続いている。

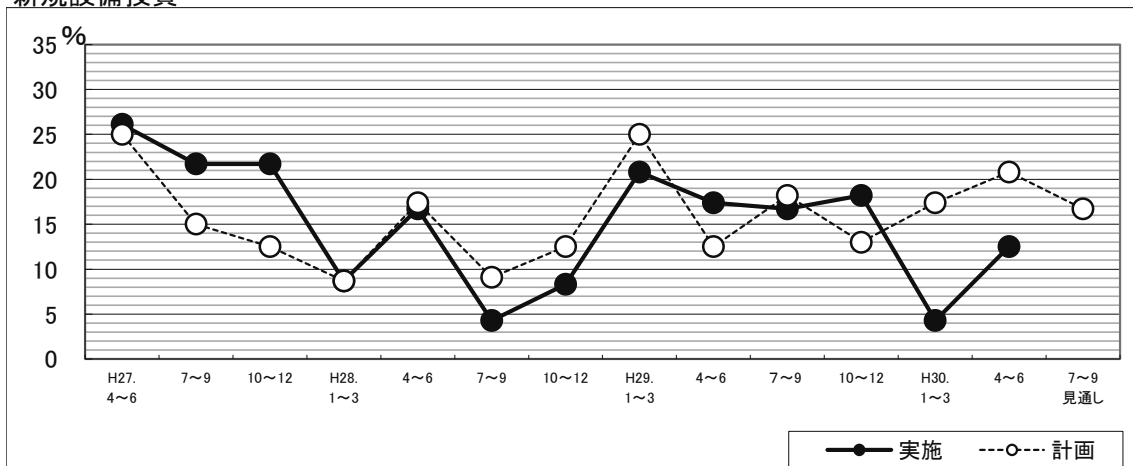
## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

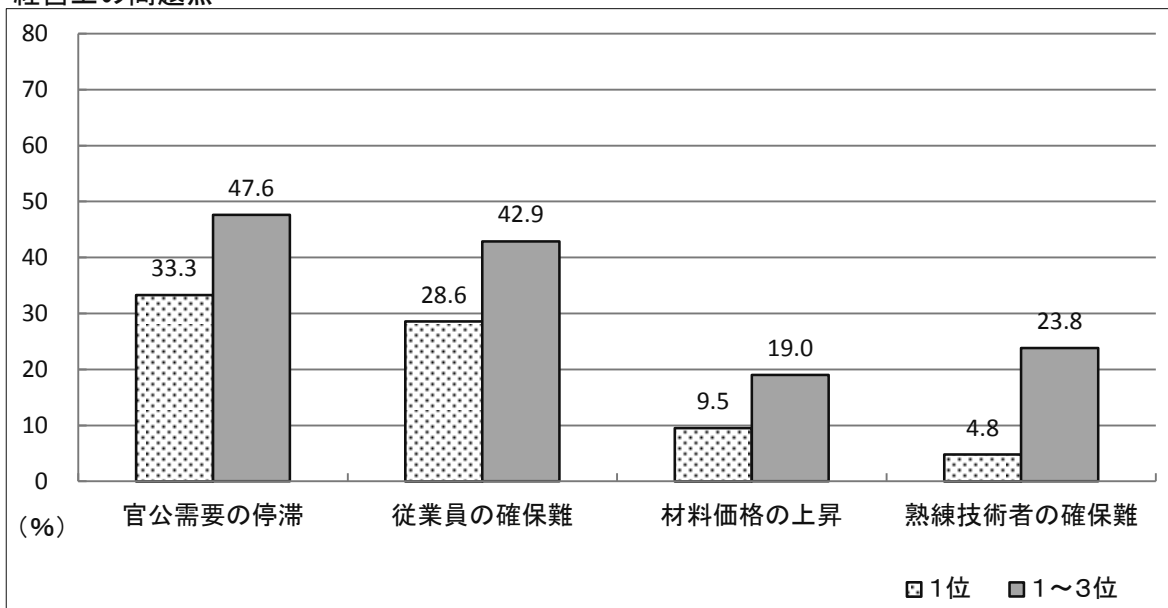
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9見通し	16.7	25.0	0.0	8.3	▲ 13.0	4.2



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・新幹線工事等の影響で材料が入手難となっている
- ・官庁の大型工事が一段落し、電力関係の検査が始まり、町内は大きな落ち込みもなく夏に向かうことになりそうである

## 建設業の景況

福井県内における平成30年度（H30年4月～H30年6月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で703億51百万円の前年同期比48.7%増、発注件数は同890件の同1.0%増となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等の関連工事で402億04百万円の同118.8%増、県関連工事等で146億17百万円の同20.1%増、国家関連工事で44億02百万円の同20.8%増となったものの、主力の市町村関連工事では105億35百万円の同7.2%減となり、前年実績を下回っている。一方、住宅投資については、平成30年4月～5月までの2か月累計で、前年同期比16.1%増の699戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比6.6%増の459戸、貸家が同48.6%増の162戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、業況（前期0.0→今期0.0）で前年並みとなったほか、仕入単価（逆指数）（前期29.2→今期41.7）と従業員数（前期▲8.7→今期▲21.7）で悪化、売上高（前期▲4.2→今期8.2）、採算（前期▲25.0→今期0.0）、資金繰り（前期4.1→今期4.2）の3項目で改善となるなど、項目によるばらつきが目立っている。また、先行き（H30年7～9月期）については、採算で横ばいとなった以外、その他5項目では改善予測となっている。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業20.8%に対し実施した企業が12.5%と低調であった。また、先行き（H30年7～9月期）については何らかの投資計画を持つ企業が16.7%となり、ほぼ横ばいの推移が予想される。

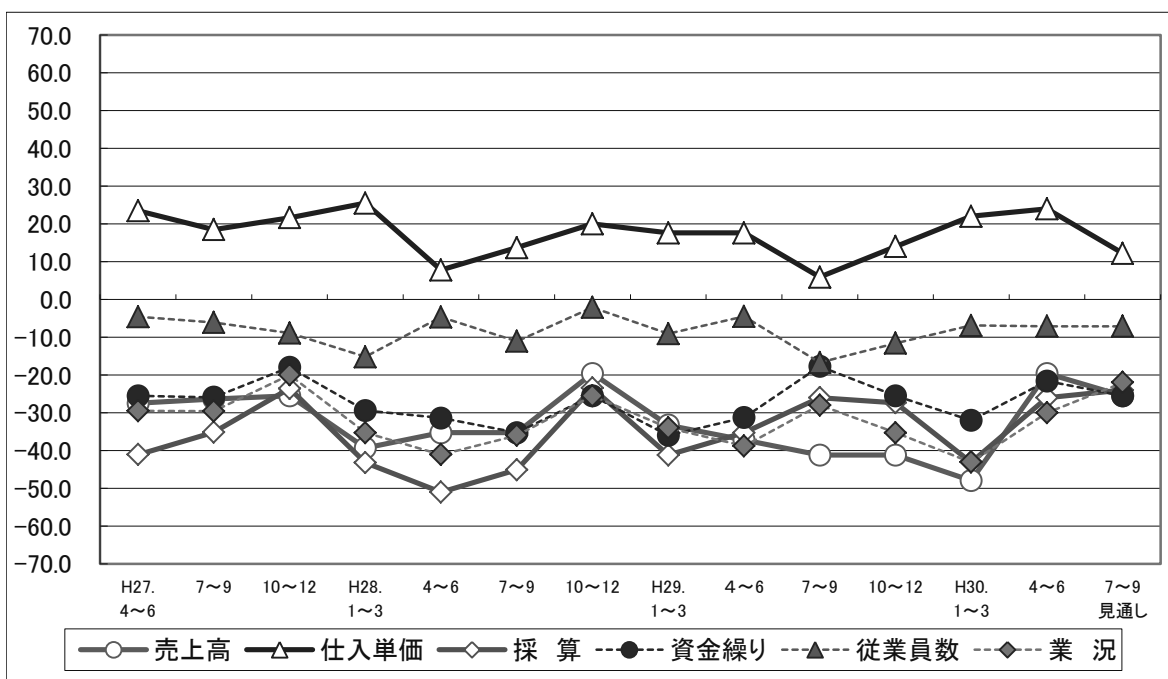
最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」への指摘が比較的高く、1位に挙げた企業ウエイト33.3%、1位～3位までに挙げた企業47.6%を占めている。次いで、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト28.6%、1位～3位までに挙げた企業42.9%で続いている。



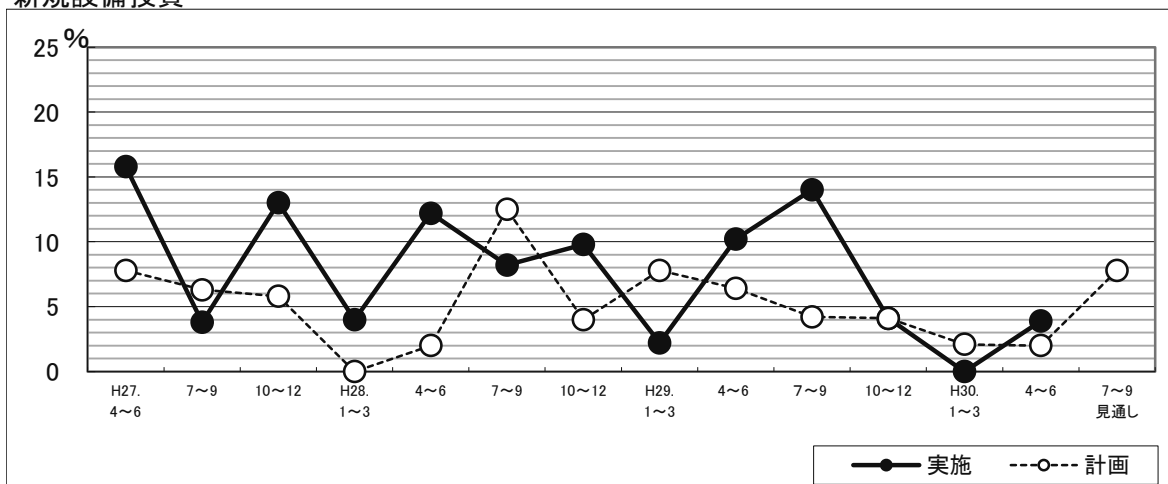
## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

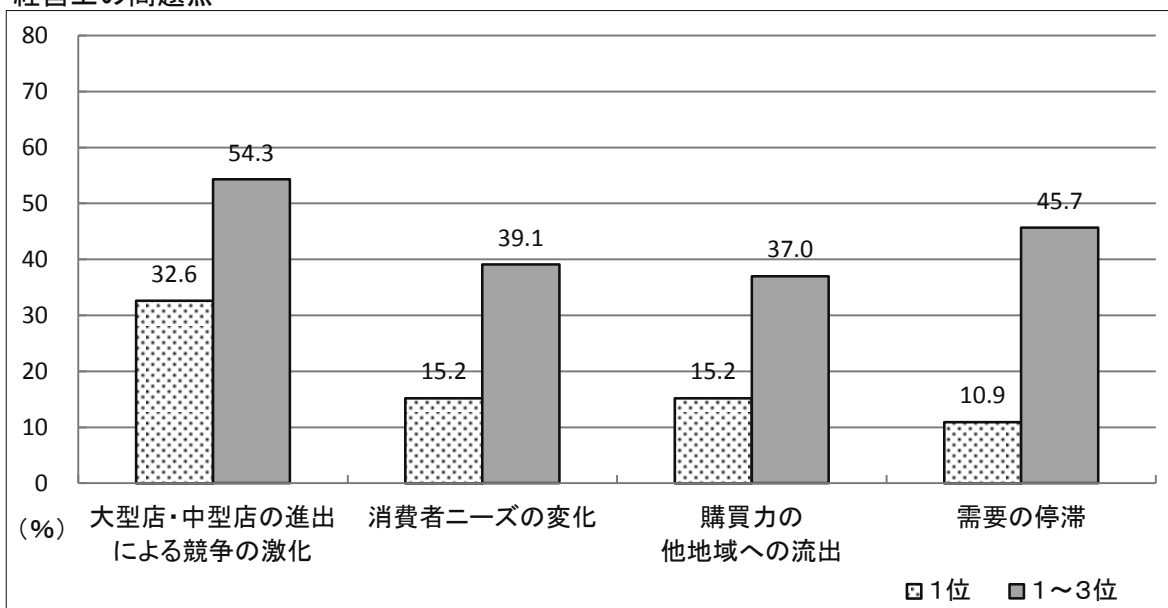
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9見通し	▲ 25.5	12.2	▲ 24.0	▲ 25.5	▲ 7.1	▲ 22.0



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 需要の停滞は消費者ニーズが変わってきている結果であり、将来的には少しずつ減少していく売上をどう維持していくかが課題である
- ・ 仕入単価が上昇傾向にあり、お客様への価格転嫁に対応することが難しくなっている

## 小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、雇用・所得環境の改善が続く中、概ね改善傾向が続いている。ちなみに、百貨店・スーパーは、衣料品の動きが不冴えながら、化粧品や宝飾品・時計等が堅調に推移。ホームセンターで生活必需品の動きが良く、コンビニエンスストアやドラッグストアなどでも日持ちするレトルト食品や缶詰の売り上げ増加などにより、概ね順調に推移した。その他、家電販売も持ち直しの動きが強まっている。参考までに、近畿経済産業局が公表する5月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）の状況は、58億72百万円の前年同期比0.8%減と1か月ぶりの前年割れとなっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価、従業員数で悪化となった以外、4項目で改善傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲48.0→今期▲19.6、仕入単価（逆指数）が前期22.0→今期24.0、採算が前期▲43.1→今期▲26.0、資金繰りが前期▲32.0→今期▲21.6、従業員数が前期▲6.9→▲7.1、業況が前期▲43.1→今期▲30.0となっている。また、先行き（H30年7-9月期）については、3項目で改善、2項目で悪化、1項目が横ばいとなり、景況感にばらつきが出ている。

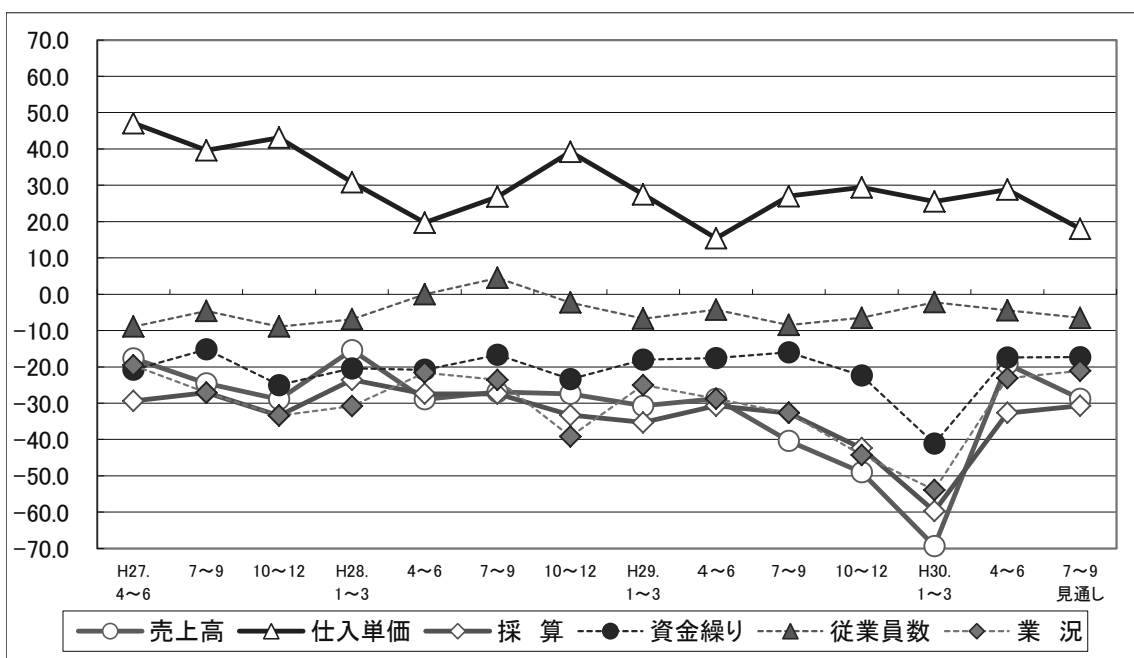
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の2.0%に対し実施は3.9%と低調ながら幾分の改善傾向が見られる。先行き（H30年7-9月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが7.8%と改善傾向が強まっている。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト32.6%、1位～3位までに挙げた企業54.3%となったほか、「消費者ニーズの変化」が、1位に挙げた企業ウエイト15.2%、1位～3位までに挙げた企業39.1%でこれに続いている。

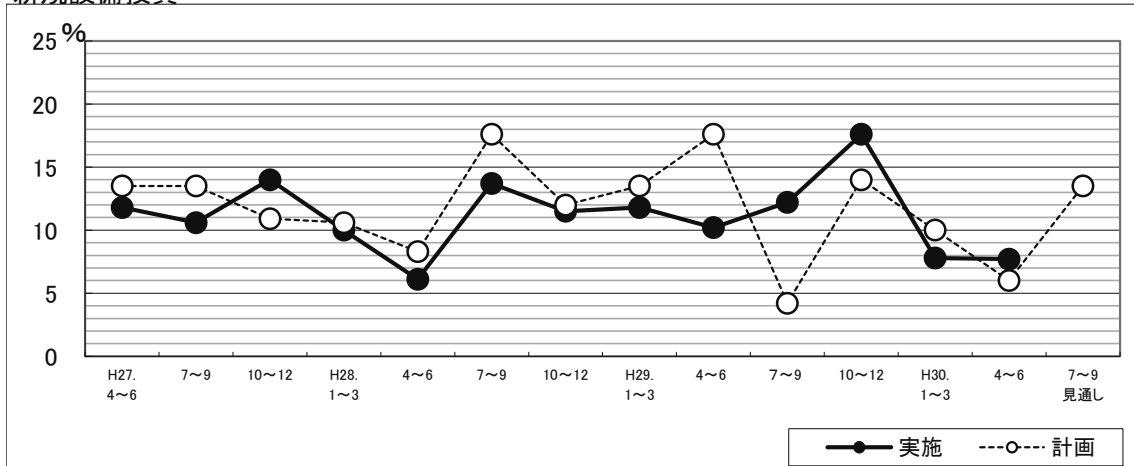
## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

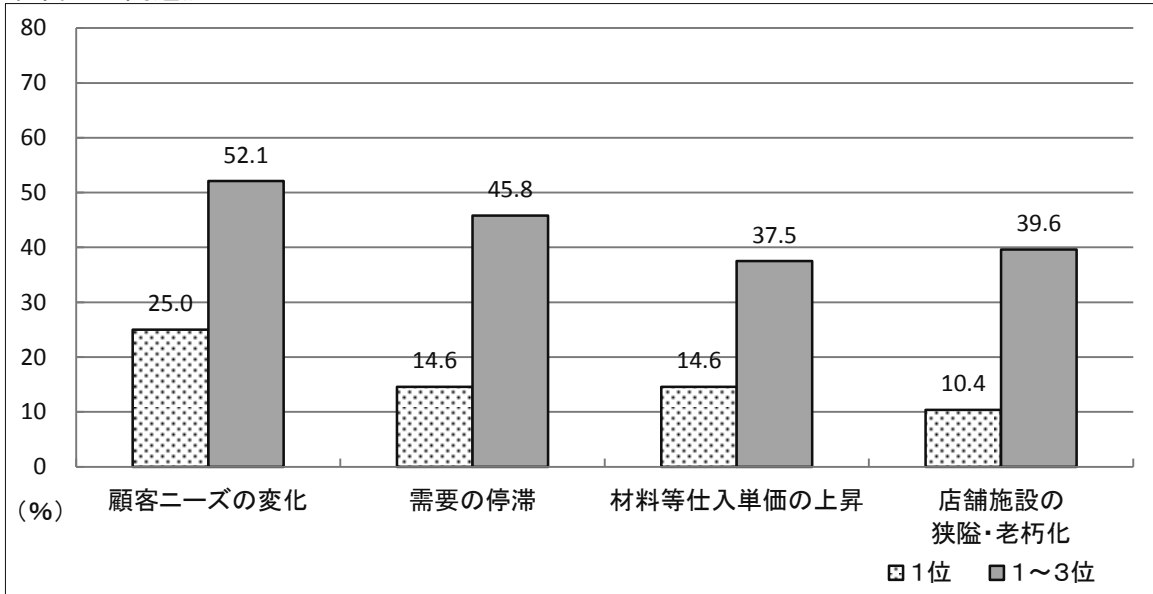
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.4~6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9見通し	▲ 28.8	18.0	▲ 30.7	▲ 17.3	▲ 6.5	▲ 21.1



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・お客は増えるが収益性は改善されていない。国体の反動が心配
- ・国体の影響で宿泊客は増加する予想だが、敗退などで早々に帰るなど不確定な要素もある。また、スポーツ施設の確保が難しく、学生合宿団体が減少している。

## サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるH30年4月のサービス関連産業売上高は30.7兆円で前年同月比1.3%増と、18か月連続の増加となった。産業大分類別の動向をみると、増加した産業は「運輸業、郵便業」（5.6兆円、前年同月比4.5%増）、「不動産業、物品賃貸業」（3.8兆円、同3.7%増）など6産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（4.0兆円、同3.4%減）、「学術研究、専門・技術サービス業」（2.7兆円、同1.1%減）など3産業であった。また、サービス産業の従業者数は、3,051万人。前年同月比0.5%の増加となっており、増加した産業は「情報通信業」（194万人、前年同月比2.1%増）、「教育、学習支援業」（104万人、同1.9%増）など7産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（264万人、同0.5%減）のみとなっている。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、売上高、採算、資金繰り、業況の4項目で改善傾向となり、仕入単価（逆指数）、従業員数の2項目で悪化となっている。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲69.3→今期▲19.2、仕入単価（逆指数）が前期25.5→今期28.8、採算が前期▲59.7→今期▲32.7、資金繰りが前期▲41.1→今期▲17.4、従業員数が前期▲2.2→今期▲4.4、業況が前期▲53.9→今期▲23.1となっている。こうした状況から、県内のサービス業では、全国の動きとは異なりかなり厳しい業況が続いているほか、その悪化の状況はほかの業種と比較し極めて深刻であることが予測される。ただ、先行き（H30年7-9月期）については、売上高、従業員数を除いた4項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画6.0%に対し実施が7.7%と、実施が計画を上回っている。先行き（H30年7-9月期）についても13.5%と、さらに改善が進むことが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「顧客ニーズ変化」（1位に挙げた企業ウエイト25.0%、1位~3位までに挙げた企業52.1%）への指摘が最も多い。また、「需要の停滞」への指摘も比較的多く、1位に挙げた企業ウエイトが14.6%、1位~3位までに挙げた企業15.8%となっている。

全国・福井景気動向 平成30年4月～6月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 17.8	35.5	▲ 20.9	▲ 12.0	▲ 4.1	▲ 17.6
	製造業						
	DI値	▲ 5.8	46.4	▲ 12.0	▲ 5.8	▲ 0.9	▲ 6.0
	建設業						
	DI値	▲ 9.2	38.2	▲ 11.2	▲ 3.7	▲ 5.6	▲ 5.4
	小売業						
	DI値	▲ 31.0	27.6	▲ 30.8	▲ 19.7	▲ 4.7	▲ 31.7
	サービス業						
DI値	▲ 18.3	34.6	▲ 22.1	▲ 13.1	▲ 5.0	▲ 18.5	
福井	全体						
	DI値	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
	製造業						
	DI値	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
	建設業						
	DI値	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
	小売業						
	DI値	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
サービス業							
DI値	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

